



今知っておきたい 特別支援教育

函館短期大学

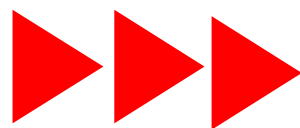
専任講師 白府士孝

1. 特別な支援を必要とする子どもの理解

① 「困る」は「できる」のはじまり！

保護者や教員などの支援者
から見た「困った子」

知的な遅れ
強いこだわり
問題行動



子どもの立場から捉えると
「困っている子」



指導・支援や療育を困難にする
原因として捉えられがち



課題や問題を明らかにするための
ファーストステップ

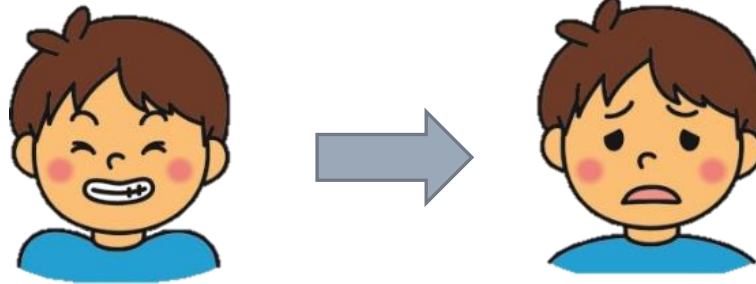


「困る」ということは、何か
が「できる」ようになるため
の支援の始まり！

1. 特別な支援を必要とする子どもの理解

② 「できる」ための子ども理解

保護者や教員などの支援者
から見た「困った子」



子どもの立場から捉えると
「困っている子」

保護者や教員など周りの支援者からの視点だけではなく、困っている児童・生徒の視点から事象と捉えることで、解決の糸口が見つかることがあります。

子どもの理解がとても大切

1. 特別な支援を必要とする子どもの理解

③発達障害（Developmental disability：DD）

日本の行政上の定義

「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」とされる。

学術的な分類

広義の学術的な分類での発達障害では、知的障害なども含むもう少し広い分類である。

1. 特別な支援を必要とする子どもの理解

④長所活用型指導で支援する

- 子どもの**得意な力**を生かして支援する。
- できないことを克服することは、とても困難であり、苦痛である。
- 「短所改善型指導」から「**長所活用型指導**」することで、子どもたちが意欲的に取り組める。
- 成功経験を積み上げることで、自己肯定感を高めていく。
- どのような状態でも、**できる喜び**を味わえるように！

2. 自閉スペクトラム症について

① 自閉症の特徴

- 視線が合わない
- 指さしをしてもなかなか共同注意ができない
- 表情が乏しい
- 名前を呼んでも反応しない
- 他人が言ったことをオウム返しをする
- 抱っこや触られるのが苦手
- 独り言や一人遊びが多い
- 聴覚・味覚などの感覚がとても敏感
- 大人の手を引っ張って行って欲しいものを示す



2. 自閉スペクトラム症について

②ウィングの3つ組

1979年にイギリスの児童精神科医ローナ・ウィングは、自閉スペクトラム症の人が持つ特徴として「社会性の難しさ」「コミュニケーションの難しさ」「イマジネーションの難しさとこだわり」を示し、これを「ウィングの3つ組」とした。

■ 社会性の難しさ

周囲の人とかかわる時に適切にふるまうことができず、相手と関係を築いたり、築いた関係を維持したりしていくことが難しい。

■ コミュニケーションの難しさ

相手が言っていることや感じていることを理解したり、気づくのが難しかったりする。また、言いたいことや感じていることを相手にわかりやすく伝えたり、表現したりするのが難しい。

■ イマジネーションの難しさ や強いこだわり

自分が見たり予想していた以外の出来事や成り行きを想像したり納得することが難しかったり、自分の興味のあることや心地よいパターンの行動に強いこだわりがあることが多い。

2. 自閉スペクトラム症について

③ 自閉症/高機能自閉症/アスペルガー症候群

自閉症……………1940年代にボルティモアのレオ・カナーによって発見された。知的な遅れ、言葉、コミュニケーションの困難さ、こだわりが見られる。

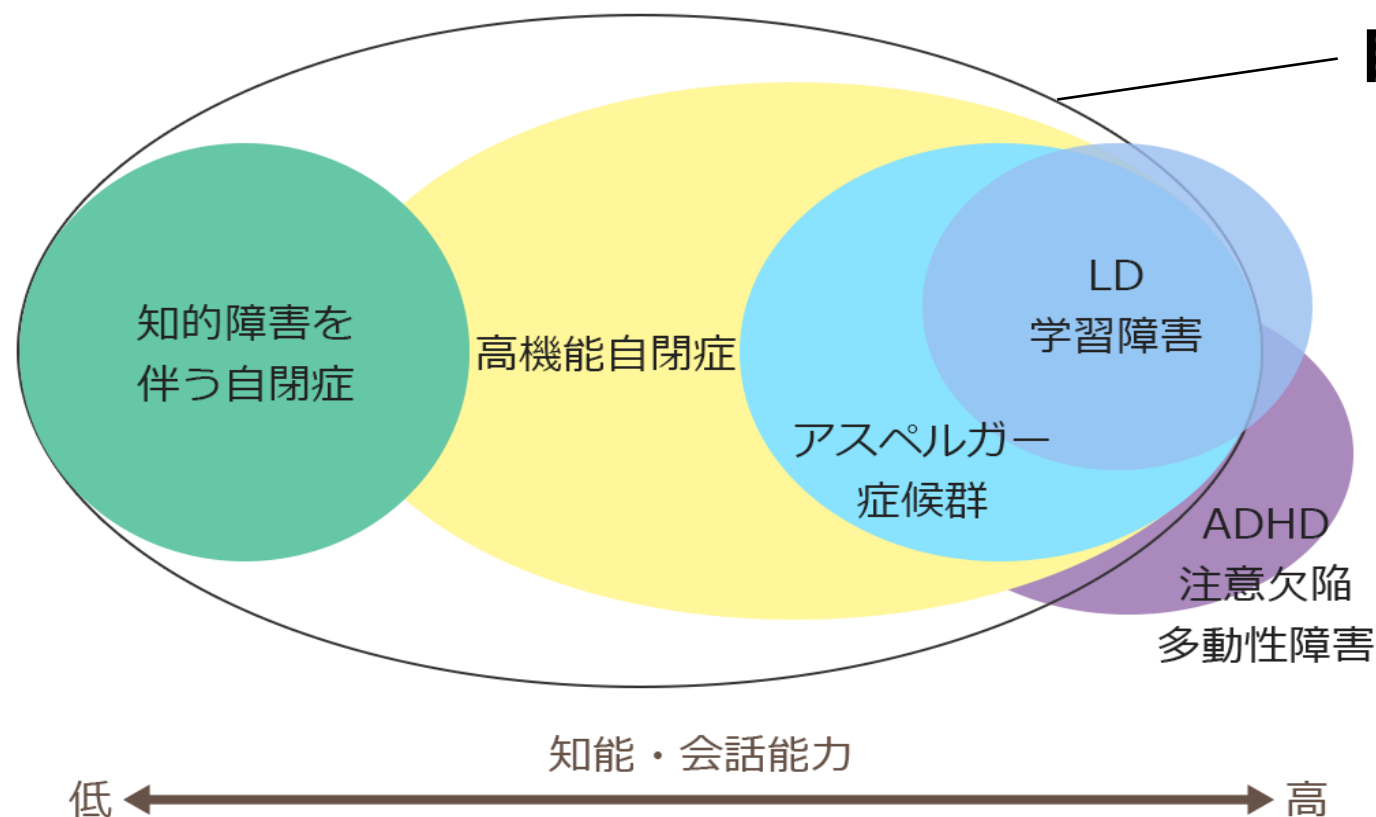
高機能自閉症…自閉症のうち知的発達の遅れがないタイプ。「高機能」とは「知的発達の明らかな遅れがない」ということを意味、「平均より高い知的能力がある」という意味ではない。

アスペルガー症候群…社会性発達の質的障害、コミュニケーションの質的障害、興味や活動の偏りを共通の類似点として示す。知的障害や言語発達に遅れを伴わない。

項目	自閉スペクトラム症		
	自閉症	高機能自閉症	アスペルガー症候群
コミュニケーション	とても困難	困難	少し困難
言葉の遅れ	ある	ある	ない
知的障害	ある	ない	ない
こだわり	ある	ある	ある

2. 自閉スペクトラム症について

子どもたちが示す様々な状態を単一的に捉えるのではなく、虹のように様々な色が含まれる**一つの連続体**として捉えようとする考え方。



自閉スペクトラム症

- 子どもの20~50人に1人
- 男性に多く、女性にの2~4倍

3. LDについて

①LDとは


- 学習障害には、教育的な立場でのLD(Learning Disabilities)と医学的な立場でのLD(Learning Disorders)の2つの考え方がある。
- 全般的な知的発達に遅れはないものの、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態。
- **読字障害**（ディスレクシア）、**書字表出障害**（ディスグラフィア）、**算数障害**（ディスカリキュリア）などさまざまなタイプがあり、また人によって症状の現れ方も違う。



3. LDについて

②読字障害（ディスレクシア）への支援

大事な部分だけを読めるように工夫する



アレクサンダは、
まん月の夜に
むらさき色の
石を…

文章に関係ある絵を用意する



アレクサンダは、
まん月の夜に
むらさき色の
石を…

分かち書きにする

単語の まとまりが
分かるように 言葉
と 言葉の 間を
空けて 文章を 提示
する

読みやすい文字サイズに調整する



読みやすい
文字サイズ

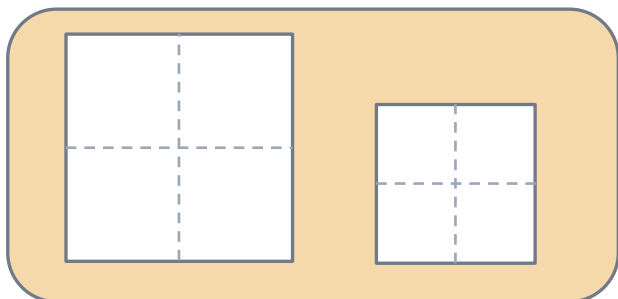
漢字にふりがなをける

単語の…
分かるように
言葉の 間を

3. LDについて

③書字表出障害（ディスグラフィア）への支援

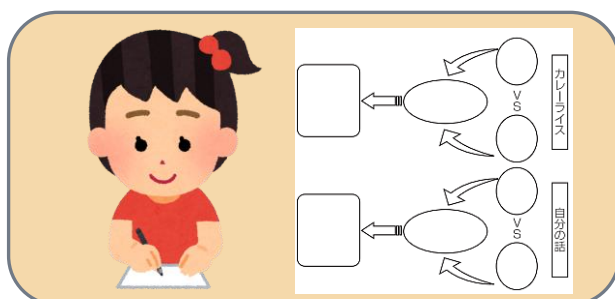
マス目の大きさや
罫線を調整する



大まかに書けてい
れば 正解にする



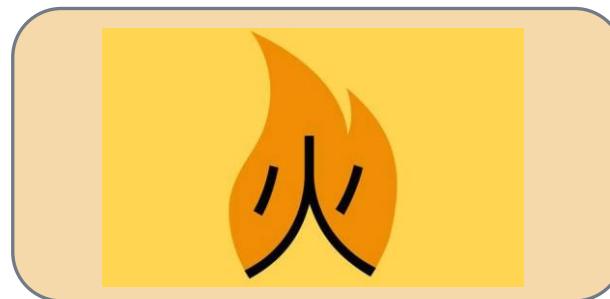
書く量を調整できる
ワークシートを使う



ICTなど代替
ツールを活用する



文字の練習では、言葉
の意味づけを行う

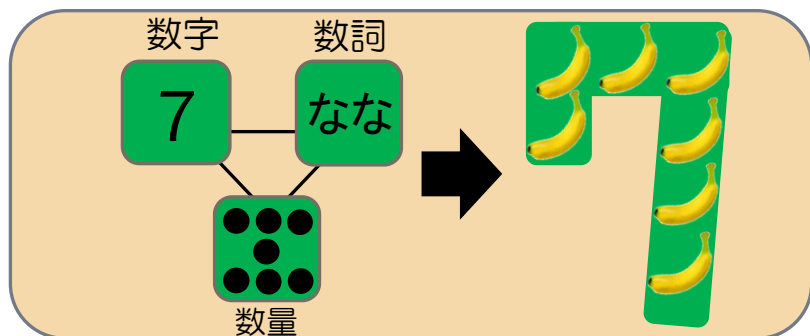


3. LDについて

④算数障害（ディスカリキュリア）の支援

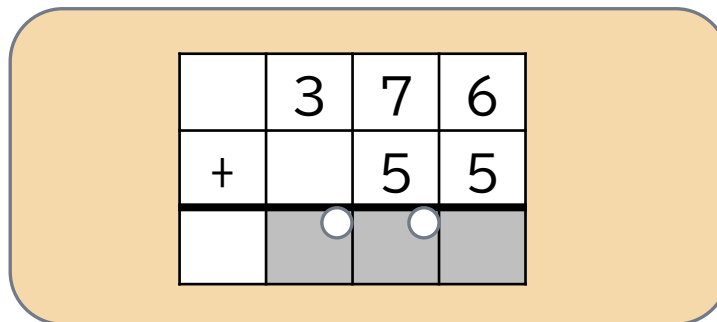
関連付けて学習

[数概念] 意味づけしながら学習



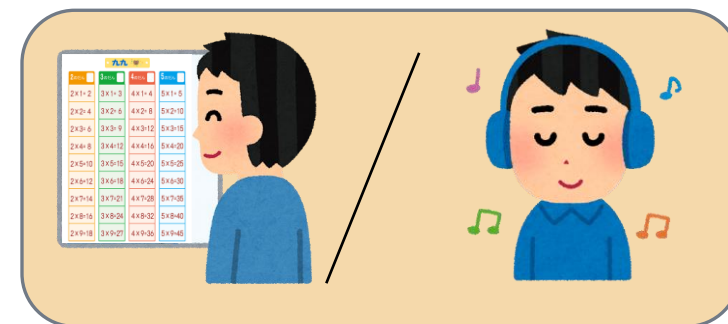
ミスを減らす工夫

[計算] 視覚的なガイド



得意な力を生かす

[九九] 見るて覚えるor聞いて覚える



情報を整理する

[文章題] 視覚的・段階的に進める

7個のあめがあります。 ○○ ○○ ○○ ○

それを2こずつで分けると $7 \div 2 =$

何人にわけられますか。 **3 あまり 1**

また何こあまりですか。 **答え 3人 1こあまる**

体験的な教材

[文章題] 生活に関連した教材

引き算→ラムネ(スッと消える)を食べる

割り算→みかんの房を分ける

秒と分→ストップウォッチで計測する

分数→ホットケーキを分ける

4. ADHDについて

① ADHDとは

- **注意欠陥多動性障害**（ADHD：Attention Deficit Hyperactivity Disorder）
- **不注意**（集中力のなさ）、**多動性**（落ち着きのなさ）、**衝動性**（順番待ちができないなど）の3つの特性を中心とした発達障害
- 7歳までに発症し、幼稚園や学校生活のさまざまな場面で、3つの特性から来る行動が確認される。
- ADHDに関連した症状は短期間で**消失するものではない**ため、勉強や人間関係の形成に困難を示すことがある。
- まれな疾患ではなく、男児のほうが女児よりも多い傾向がある。

4. ADHDについて

②ADHDの原因

- 自分の注意や行動をコントロールする脳の働き（**実行機能**）のかたよりが関係していると考えられているが、詳しい原因はまだわかっていない。
- ADHDの発症に関与する遺伝子はいくつか発見されているが、いまだに遺伝的要因を確定できるものではない。
- 生育環境（**経済状況** や **虐待** の有無など）などが、ADHDが発症する環境因子として考えられている。



4. ADHDについて

③多動・衝動性優勢型（落ち着きのなさが目立つ）

- すぐに迷子になる
- 興味のあるものを見つけるとすぐに走り出す
- 高いところへのぼりたがる。
- 友達とのけんかやトラブルが多い
- 授業中など、じっとすべき場面で席を立つ
- 物を乱暴に扱う（おもちゃをよく壊す）
- 授業中に手を挙げずに答えてしまう



→年齢が上がっていくと、反比例するように徐々に多動性が**減っていくこと**が多い。

4. ADHDについて

④不注意優勢型（不注意が目立つ）

- 気が散りやすい（注意散漫）
- 指示と無関係のことをしてしまう
- 忘れ物や失くし物が多い
- ケアレスミスが目立つ
- 約束を守れない（忘れてしまう）
- 複数のタスクを並行できない、順序だてて物事を行えない

→不注意の特性は年齢を重ねても**軽快することはない**。



⑤混合型（不注意、多動性、衝動性ともに目立つ）

- 上記に挙げた①と②が同程度に目立つタイプ。

4. ADHDについて

⑥環境調整（生活環境を整える治療）

ADHDの行動が生じやすい環境を避け、より物事に**集中できる**環境をつくる。また、学習や仕事についていけなくなった際にもサポートしてくれる人のいる環境をつくること。

環境調整の例

- 掲示物を最小限にする
- 先生の一歩前の座席にする
- 周囲にサポートをしてくれる人を配置する
- その都度ルールやすめることを確認する



4. ADHDについて

⑦行動療法（SST、ペアレントトレーニングなど）

SST 【Social Skill Training】は、集団行動や対人関係をうまく構築するために必要なこと（あいさつ、トラブルが生じた際の対処、相手の思考や感情を理解するなど）がなぜ必要かを学び、訓練するもの。

ペアレントトレーニング は、ADHDの症状により好ましくない行動を取った際、保護者がどういう対応をするのが適切かを学ぶもの。

⑧薬物療法

環境調整やSSTを行ってもなかなかADHD症状による生活の支障が改善しない場合は、薬による治療を実施する。

→薬の効果がある時に**何をどう学ぶかが大切**

5. 虐待による子どもへの影響

① 愛着障害について

生後5歳未満までに親やその代理となる人と愛着関係が持てず、人格形成の基盤において適切な人間関係を作る能力の障害

- 二つの群 – 抑制型 : 他者に対して無関心。ASDに類似 → **反応性アタッチメント障害**
- 脱抑制型 : 部分的な愛着関係の状態に取り残され、他者に対して無差別に薄い愛着を示す。ADHDに類似 → **脱抑制型対人交流障害**



- 予後 : 自制能力の欠如…心のコントロール がうまくできない。
人間関係構成能力の障害…人との交流 がうまくできない。

5. 虐待による子どもへの影響

②愛着障害の特徴について

身体的な特徴

- ・体重が軽い、身長が低いなど平均より身体が小さい、風邪をひきやすい、胃腸が弱いなど体調を崩しがち、よく眠れない、食欲がない

行動的特徴

- ・自分を傷つける行動をする、物や人を噛む、叩く、嘘をつく、謝ることができない、大人を試すような行動をする

発達障害に似た特徴

- ・言葉が出ない、危険な行動、モノへの異常な執着、片付けられない
- ・自尊感情の低下、失敗への不安、パニック、落ち込みやすい、イライラしやすい

5. 虐待による子どもへの影響

③ADHDと虐待によるADHD様症状の違い

ADHD	項目	ADHD様症状
多動性行動障害示す 混合型が多い	臨床像	多動性行動障害示す 不注意優勢型が多い
不器用	器用さ	不器用
極めて苦手	整理整頓	極めて苦手
非常に多い	対人的トラブル	非常に多い
比較的1日中多動	多動の生じ方	ムラがある／夕方からハイに
単純で素直	対人関係	逆説的で複雑
見られない	解離	よく見ると非常に多い
比較的少ない	非行への移行	非常に多い
中枢刺激剤が最も有効	薬物療法	中枢刺激剤は無効 抗うつ薬／抗精神病薬が有効

5. 虐待による子どもへの影響

④虐待と反抗挑戦性障害/素行症との関連

・反抗挑戦性障害

かんしゃくをおこす、大人と口論をする、大人のいうことをきかない、わざと他人を怒らせる、意地悪で執念深い、おこりっぽい、いらいらしやすい、自分の失敗を人のせいにするなど(子ども虐待では過半数)

・素行症(非行)

触法行為、残虐行為(動物や人を傷つける)、ものや建物を破壊する、嘘をつく・社会のルールに従わない・罪の意識を感じないなど非行を繰り返す

・犯罪行為(暴行・窃盗・薬物)

5. 虐待による子どもへの影響

⑤ 虐待による行動障害を示す子どもへの対応

生活

安全確保、生活スキル
愛着の修復、行動障害の抑制

児童相談所

治療

診断、心理教育、子の治療、
親のサポート、解離の統制、
フラッシュバックへの対応、

病院

ケアチーム

(各機関の調整、役割分担)

教育

学力の凹凸の見極め
個別教育プログラム
健康な社会行動スキルの獲得

保育園・幼稚園・学校

5. 虐待による子どもへの影響

⑥保育士・教師としての心構え

(1) 主訴を見極める

→親も悩んでいることを理解し、悩みを共有する

(2) 規則を前面に出す

→その行為が違法であり、止める義務がある

(3) 周困(保護者・関係機関・同僚など)と対立しない

→一人では解決できない。仲間を大切に

(4) うまくいかないこと を覚悟する

→すぐに結果を求めず、長期的な対応で

6. 参考文献

青山眞二(2019) アセスメントで授業は変わる.図書文化

本田秀夫(2019) 子どもの自閉スペクトラム症ABC ～特性を知って付き合っていこう～.大塚製薬株式会社

小野次郎・上野一彦・藤田継道(2007) よくわかる発達障害.ミネルヴァ書房

Medical Note(2020) ADHD.Medical Note HP <https://medicalnote.jp/diseases/ADHD>

長澤正樹(2018).虐待を考える発達障害に関する諸問題.長澤研究室HP.発達障害・特別支援教育関係の資料:
www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/nagasawahomepage2-2.html

杉山登志郎(2007) 子ども虐待とうい第四の発達障害.学習研究社